

岐阜市の自然情報継続調査について

調査体制

動植物に関する 8 部会で構成される専門調査部会（以下、調査部会）を立ち上げ、調査を行いました。

動植物に関する専門調査部会

分類群	部会長	所属
植物	近藤慎一	岐阜県植物研究会 会員
哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会 会員
鳥類	大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜 顧問
爬虫類	楠田哲士	岐阜大学応用生物科学部 教授
両生類	高木雅紀	岐阜県立大垣北高等学校 教諭
魚類・甲殻類	向井貴彦	岐阜大学地域科学部 教授
昆虫類	野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 会員、一般財団法人 自然学総合研究所
貝類	川瀬基弘	愛知みずほ大学人間科学部 准教授

調査結果

各専門調査部会の調査結果は次のとおりでした。

令和 5 年度 専門調査部会の調査結果

分類群	確認種数	新規確認種数	岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種	岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種
植物	355	3	12	41
哺乳類	18		5	4
鳥類	48		4	4
爬虫類	7		3	1
両生類	14		9	1
魚類	50	1	15	7
昆虫類	50		4	
貝類	28		9	10
甲殻類	11	1	4	2
合計	581	5	65	70

新規確認種

令和 5 年度調査において、岐阜市内で新規に確認された動植物は 5 種でした。

令和 5 年度調査 新規確認種

分類群	科名	和名	備考
植物	ミサキ科	ミサキカグマ	
	ラン科	タシロラン	環境省 RL2020：準絶滅危惧。
	ゴマノハグサ科	トウフジウツギ	外来種(中国原産)。
魚類	サンフィッシュ科	コクチバス	特定外来生物（北アメリカ原産）
甲殻類	テナガエビ科	チュウゴクスジエビ	外来種（中国からシベリアに自然分布）



ミサキカグマ

(撮影：室伏幸一 市外)



タシロラン

(撮影：近藤慎一)



トウフジウツギ

(撮影：近藤慎一)



コクチバス

(撮影：向井貴彦 市外)



チュウゴクスジエビ

(撮影：向井貴彦)

考察（生物多様性に迫る 4 つの危機）

各分類群について、調査結果から生物多様性に迫る 4 つの危機に関して考察しました。

生物多様性に迫る 4 つの危機

危機	内容
第 1 の危機	開発など人間活動による危機
第 2 の危機	自然に対する手入れ不足による危機
第 3 の危機	人により持ち込まれたものによる危機
第 4 の危機	地球環境の変化による危機

植物

- ・金華山・達目洞周辺を中心に調査を実施しました。岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種は 12 種確認しました。このうち、ウスキムヨウラン(岐阜市 RL2023：情報不足)は、常緑広葉樹林に生育するラン科の植物です。岐阜市内は伐採等の人間活動により、自然性の高い常緑広葉樹林は少なくなりました【第 1 の危機】が、金華山・達目洞周辺では現在も残されており、ウスキムヨウランのような希少な植物が生育しています。
- ・一方、金華山・達目洞周辺では、管理不足による枯木、倒木等が多い山林も見受けられました。【第 2 の危機】
- ・今回の調査で岐阜市内では初記録のタシロラン(環境省 RL2020：準絶滅危惧)を確認しました。タシロランは、落葉が多く堆積する場所に生育するラン科の植物です。近年、関東地方以西で確認記録が増加しており(横川, 2022)、燃料革命以降、樹林内の落葉の堆積が放置されたため増加しているという考察(富田, 2005)【第 2 の危機】や、温暖化に伴い分布を拡大しているという説(井上, 2015)【第 4 の危機】等があります。
- ・金華山・達目洞周辺でも多くの外来種が定着しているようで、岐阜市版ブルーデータブック 2023 掲載種は 41 種確認しました。他にも、岐阜市内初記録である中国原産のトウフジウツギが確認されました。【第 3 の危機】

哺乳類

- ・岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023 までの調査から引き続き特定外来生物のヌートリア、クリハラリス、アライグマのほか、生態系被害防止外来種の総合対策外来種であるシベリアイタチが確認されています。特にアライグマは岐阜市内に広く定着し、ニホンイシガメの前肢欠損個体の事例等も報告されていることから、在来生物の食害など生態系への影響が懸念されます。【第 3 の危機】

鳥類

- ・長良川水系の河川管理で、本流河川支流河川ともに河畔林伐採が進み、河畔林で繁殖するホオジロ、カワラヒワ、ウグイス、キジバト、ヒヨドリ、キジ等の生息場所が縮小傾向にあります。また、近年河畔林での繁殖が多いオオタカの営巣も当然減少して、かつ冬季の餌場となるカモ類の

集合場所も変化したため観察頻度は著しく低下していました。【第1の危機】

- ・放棄水田等の増加によって、雑草低木の繁茂、水田の湿地としての役割が低下等によって水辺環境を好む小型サギ類等の減少傾向がみられました。【第2の危機】
- ・今回の調査対象とした「ながら川ふれあいの森」は、繁殖地・越冬地として留鳥夏鳥ともに多くが生息します。夏鳥の代表的なサンコウチョウは5月初旬に飛来するのが通常でしたが、今年度は6月になってようやく1番が現れて繁殖しました。また、夏鳥のキビタキ、オオルリも個体数は少数でした。「ながら川ふれあいの森」の環境だけでなく越冬地での影響が夏鳥の渡りや繁殖にかかわっていると思われます。また冬鳥も例年観察されるような種が少なく、地球環境の変化の影響を受けている可能性があります。【第4の危機】

爬虫類

- ・2009-2013年の淡水生カメ類捕獲調査でニホンイシガメが捕獲された11地点（岐阜市北西部）を対象に、同様の捕獲調査を実施しましたが、今回ニホンイシガメを捕獲できたのは2地点だけでした。他の地点ではミシシippアカミミガメとクサガメが捕獲されたほか、ニホンイシガメとクサガメの交雑個体も捕獲されました。【第1、第2、第3の危機】

両生類

- ・水田の手入れがないため水深が浅くなり、アズマヒキガエルの繁殖環境としては悪化している地域がみられました。【第2の危機】
- ・保全活動とイノシシの減少の効果に伴い、アズマヒキガエルの個体数の増加傾向がみられました。ただし、保全活動の中止、イノシシの増加があると元に戻りそうな状況なため、今後の動向が注目されます。【第2の危機】
- ・アメリカザリガニが増加しており、ヤマアカガエルの卵への影響（食害）が大きいと考えられます。また、池に生息しているコイの食害による影響も懸念材料となります。【第3の危機】
- ・地球温暖化による影響は、多くの両生類にとっては水中の胚発生の時期から幼生期の水温上昇、変態・上陸後の陸上生活期の気温の上昇は、影響が大きいと考えられます。それに加えて、年間の総雨量はさほど変化していないものの、ゲリラ豪雨など一度に降る雨量が増加している（言い換えれば、雨の降らない時期が長引く時がある）傾向にあるほか、繁殖期に降雨が非常に少ない年もあるため、産卵ができない、産卵が遅れて過熟な卵が発生しないなど、充分に子孫を残すことができない年が見られます。【第4の危機】

魚類・甲殻類

■魚類

- ・令和5年8月に長良川千鳥橋付近で特定外来生物のコクチバスが確認されています。コクチバスは動物食性が強く、魚類、甲殻類、水生昆虫等を捕食するほか、流水域への適応性が高いことから、在来生態系への影響が懸念されます。【第3の危機】
- ・長良川の鵜飼観覧事務所付近に開設された管理釣り場から、令和6年2月に発生した増水によってニジマスが流出しました。ニジマスは動物食で陸生・水生昆虫、甲殻類、魚類等を捕食するた

め、在来生態系への影響が懸念されます。環境省の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」産業管理外来種に選定されているほか、水産庁の「水産分野における産業管理外来種の管理指針」（H29.11）でも利用上の留意事項として「これ以上の分布拡大をしない」が記載されており、今後の影響が懸念されます。【第3の危機】

■甲殻類

- ・今年度の調査でチュウゴクスジエビが確認されました。また、写真情報では2010年に岐阜市で記録があることも判明しました。生息環境が類似するスジエビやヌカエビ等の在来コエビ類への影響が懸念されます。【第3の危機】

昆虫類

- ・今年度の調査では、コオイムシやタイコウチ等水辺や湿地の昆虫を多く確認しました。これらの種は水田脇の水路や水たまり等に生息しますが、近年、水田の耕作放棄等によって生息環境が喪失・悪化している場所もみられるため、今後の生息状況への影響が懸念されます。【第2の危機】

貝類

- ・岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023 までの調査から引き続きスクミリンゴガイ、コモチカワツボ、タイワンシジミ等の外来種が確認されています。
- ・特にスクミリンゴガイは生息環境を同じくする他の在来淡水貝類への影響のほか、水稻への食害など農作物への被害も懸念されます。【第3の危機】

■参考文献

- ・井上 健（2015）タシロラン．矢原徹一ほか監修，レッドデータプランツ 増補改訂新版．山と溪谷社，東京，492pp.
- ・富田 昇（2005）希少種タシロラン（ラン科）の分布拡大要因に関する考察．パルテノン多摩博物館部門研究紀要 9:61-66.
- ・横川 昌史（2022）大阪府におけるタシロランの記録と生育環境．大阪市立自然史博物館研究報告 76:143-147.